Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.23, October 2019
http://www.inf.shizuoka.ac.jp
October2019
vol.23
静岡大学情報学部

行事報告

Report of events

平成 31 年度入学式・保護者懇談会

情報学部学生委員会　新谷 誠

平成 31 年度の入学式は、４月４日（木）10 時から静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）にて行われました。本年度は、情報科学科 100 名、情報社会学科 70 名、行動情報学科 74 名、情報科学科編入生３名の合計 247 名の新入生を迎えました。

当日午後には穏やかな天候の中、新入生の保護者の皆様を対象とした「情報学部保護者懇談会」が開催され、多くの保護者の皆様にご参加をいただきました。懇談会では、高橋晃学生委員長の司会進行により、近藤真学部長はじめ、宮崎佳典情報科学科長、遊橋裕泰行動情報学科長、森野聡子情報社会学科長、堀内裕晃教務委員長、高橋晃学生委員長、湯浦克彦キャリア支援室長、吉田寛国際交流委員長から情報学部の現状、教育、就職、学生生活等の説明をさせていただきました。また、本学部の同窓会組織である浜松工業会会長藤井彰様からも御挨拶を頂戴しました。

浜松市をはじめ静岡県内、愛知・岐阜・三重県を中心に全国から多くの保護者の皆様にご参加いただきました。また 163 名の保護者の方から、アンケートのご回答をいただきました。多くの貴重なご意見を、誠にありがとうございます。

最後に、アンケートで好評であった３学科長による空港の顔認証を例とした３学科の特色を紹介します。情報社会学科では、個人情報の流出や悪用が気になるので顔認証を使うのが便利またはそうでは無い領域を学生には考えてもらいたいです。情報科学科はコンピュータサイエンスのセンサ技術、画像処理、ディープラーニングなどが必要になることがわかるので、各技術を追求していきます。行動情報学科のアプローチは顔認証の技術があれば、それをサービスで活用できないかを考えます。つまり、新たな技術要素を使って、サービスをデザインしていくことです。この例のように、情報学部の３学科は、それぞれの学科の特色ある教育を行うとともに学科として連携しあい、情報学部全体として人間と情報技術のよりよい関係を作るために総合的に取り組んでいます。

保護者懇談会会場の様子（2019/4/4）

新入生歓迎合宿 in 伊良湖

情報学部学生委員会　新谷 誠

４月 20 日（土）から 21 日（日）の午前にかけて、愛知県渥美半島の休暇村伊良湖にて情報学部の新入生歓迎合宿が行われました。この新入生合宿は同級生だけではなくて上級生とも親睦を図る情報学部の行事です。今年は情報科学科、行動情報学科、情報社会学科からほぼ全員の 241 名の新入生が参加し、大盛況のうちに終わりました。特に、朝まで体育館でスポーツを楽しんだ学生で朝５時の風呂は満員で、朝食（バイキング）ではサラダバーでたくさんの野菜を食べている姿が印象的でした。

本合宿は、毎年情報学部２年生と３年生の有志が中心となって企画から運営までのすべてを担当しています。今年も 30 名以上の上級生スタッフが、新入生の時に受けた感激や充実感を後輩に引き継ぐ意気込みで、様々なイベントの企画・運営を行いました。

合宿では、バス移動中の自己紹介にはじまり、入村式、バーベキュー、レクリエーションなどのイベントが多数催されました。合宿開始時には緊張した面持ちを見せていた新入生でしたが、バーベキュー、借り人競争、伝言ゲーム、ビンゴゲームと上級生が企画したイベントに参加するにつれ徐々に緊張がほぐれ、これから一緒に学ぶ仲間と良き絆を作ることができました 。上級生スタッフにとっても、リーダーシップを取ることの難しさを感じ、大きなイベントを企画運営することの達成感を味わうことができました。

合宿の様子（2019/4/20-21）

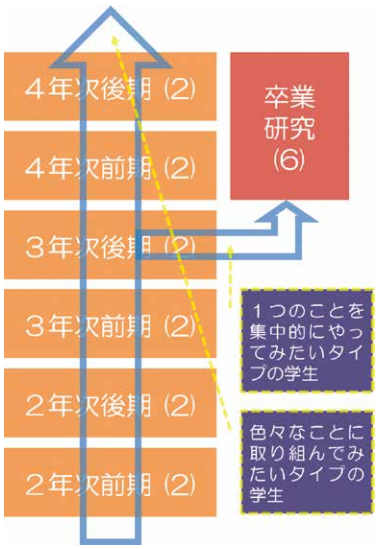
先端情報学実習

世話人会／情報科学科・准教授　尾張 正樹

2017 年度より情報学部に新しい「学びのシステム」である『先端情報学実習』が導入されました。先端情報学実習は、「〇〇をしたい」という意欲のある学生と、それをプロフェッショナルな姿勢のもとで指導・支援する情報学部の教員とが一体となって取り組む、学生の主体性に基づいて実施される研究プロジェクトです。先端情報学実習では、入学時から卒業するまでの４年間一貫して本格的な研究活動に従事でき（ただし教務上の取り扱いは２～４年次）、情報学に関わる各分野・領域の高い専門性を有した複数の教員の指導と支援のもとで学術研究に取り組みます。条件が整えば，これを卒業研究として発展させていくことも可能です。現在、17 の研究プロジェクトが実施されており、２年生から４年生まで合わせて約 100 名の意欲的な学生が各研究プロジェクトに携わっています。またそれぞれの研究プロジェクトには、必ず所属学科が異なる教員が複数名参画しているため、文工融合の理念に基づく情報学の研究・教育が実践的に行われます。この新しい「学びのシステム」は全国的にも珍しく、他の大学や企業などからも大きな関心と期待が寄せられています。

昨年度から先端情報学実習では、その一つの特徴でもある「優先配属制度」を運用しています（3 年次学生が対象）。この制度は先端情報学実習に携わっている学生がこの制度の適用を希望し、かつ一定の条件を満たした場合、通常の研究室配属の方法とは異なるプロセスで学生が希望する研究室に優先的に配属されるものです。さらにこの制度を活用しますと、学生が所属する学科とは異なる情報学部内の他学科の研究室で、先端情報学実習で取り組んでいる研究テーマを継続して卒業研究とすることができます。今年度はこの制度が適用された学生が 18 名おり、そのうち 12 名が他学科の研究室で卒業研究に取り組むことになりました。

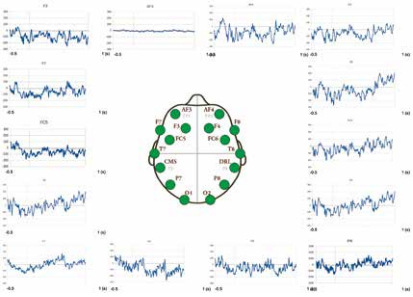
このように先端情報学実習は、意欲がある学生が研究活動に早期から取り組め、学科の枠を超えて横断的に先端的な情報学と向き合える「新しい学びのシステム」として発展してきています。なお、これまでの成果の一部は情報学部の公式 Web サイトで頻繁に紹介されていますので、是非ご覧になってみてください。



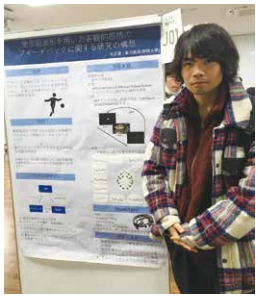
先端情報学実習 プロジェクト紹介　インタラクションデザインを通した情報学研究

行動情報学科３年　米田 凌

私は２年前期から「インタラクションデザインを通した情報学研究」に参加していました。このプロジェクトでは，研究とは何かについての基本的な議論から始まり，研究内容を設定し，実際に実験を実施するまで体験することができます。テーマは「インタラクションデザイン」に関連するものならば自由に設定でき，自分が本当にやりたいことを研究することが可能です。定期ミーティングでは，情報学部３学科計６名の先生方から多様な視点のフィードバックを受ける貴重な機会となりました。また，研究方法の設定や研究の実施においては，自身を担当してくださる先生から直接指導をしていただき，自身の成長につながったと感じます。私は生体情報を用いた感情のコントロールについて研究しました。初めはわからないことばかりでしたが，この実習を通じて理解も進んでいきました。今後もこの研究を進めていきたいです。



簡易脳波計を用いた予備実験



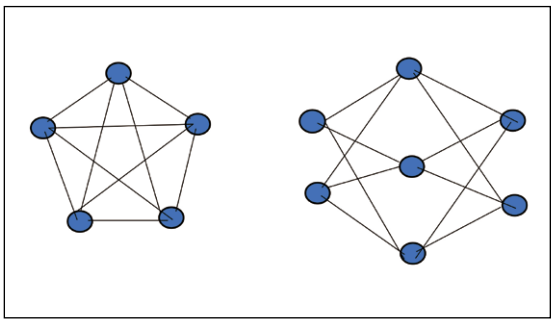
情報学シンポジウム

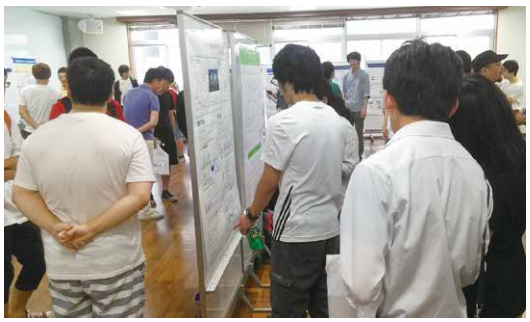
先端情報学実習 プロジェクト紹介　未解決問題と問題解決環境、そして問題解決～英語で数学の最先端～

情報科学科３年　川合 達也

本プロジェクトの内容はずばり「グラフ理論について英語の文献を使って勉強すること」です。グラフ理論とは数学の分野の一つで、頂点と辺の集合の組で表される「グラフ」の性質について調べる学問です。実は現実世界のいたるところにグラフは隠れていて、ネットワークや地図上の経路、計算量の問題など、グラフ理論は情報科学とのつながりも非常に深い分野です。

私は「担当箇所を決めて資料を読んできて発表をする」輪講形式でグラフについて学びました。この発表を通して自分の理解を整理することができ、自分で勉強してわからなかった点については指導教員の新谷先生のご指導の下で理解を深めることができました。また、輪講で他の学生の発表を聞くことで自分にはない考え方に触れることができるのは非常に面白く、これも魅力の一つだと思います。プロジェクト名にもある「未解決問題」に対して自分で答えを出すことは難しいですが、今後も様々な考え方に触れてグラフについての理解を深め、考えていきたいです。

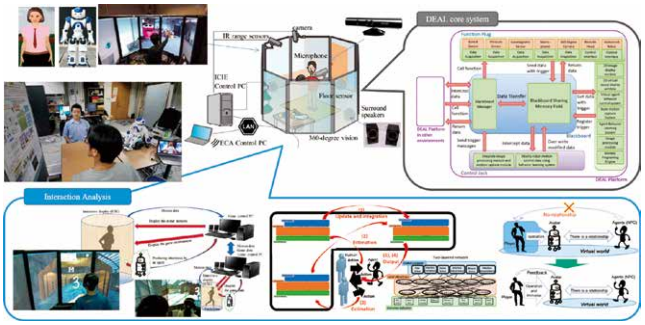




人の間に浮かび上がるものを知る

行動情報学科　大本 義正

AI ブームと言われて久しい昨今、法的問題や倫理的な問題を中心に、AI が社会に浸透してきた際に起こる問題もまた取り上げられるようになってきました。今現在、盛んに議論されているのは、主に実務的な側面（例えば、AI のやったことに誰が責任を持つのか、など）です。しかし、遠い将来に実現すると考えられている「人工知能」は、人間がおそらく初めて対峙する、人間以外の知的存在であり、その影響は実務的な側面にとどまらないと考えられます。私の研究は、いかにして人工知能を社会の構成員として受け入れられるようにするのか、という点に焦点を当てています。特に、工学、哲学、認知科学、といった様々な学問の知見をより集め、人間と「他者」との関わり合いというものが、どのように成立し、どのような過程を経て発展し、どのような形に収束していくのか、ということに興味を持って研究を進めています。文工融合の理念を持つ静岡大学情報学部で、「人間」と「人工物」のことを考えることで見えてくる「他者」との関係のあり方を、社会に還元できる形で明らかにして行くことができればと思っています。



身軽に仮想空間で活動ができる没入型仮想環境を構築し、その中で、人間と人工物のインタラクションを分析しています。体感型のインタラクションを容易に行うことができます。

品質の向上を通じて，社会に貢献する

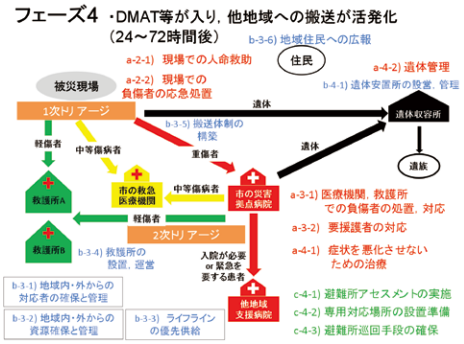
行動情報学科　梶原 千里

今年度より行動情報学科に着任いたしました梶原と申します．どうぞよろしくお願いいたします．

私は，品質マネジメント，品質管理の研究に取り組んでいます．品質がよいとは，提供する製品，サービスがお客さんのニーズと合致していることを指します．私たちが日常的に利用している製品，サービスが安全に機能し，さらに，自分のニーズに見合っていれば，私たちの生活はより豊かに，楽しくなります．その実現に向けて，品質情報を収集，分析し，品質の高い製品，サービスを創出，提供するための方法論，手法の開発を行っています．

品質管理は主に製造業で発展してきた分野ですが，現在私はこのノウハウを医療界に適用することを試みています．特に，災害時の医療の継続性や質を担保するための仕組み作りに関する研究に注力しています．

産業が盛んな浜松の地で品質管理の研究ができることを大変嬉しく思っております．実際に現場へ赴き，そこでの取り組み内容や課題を講義やゼミで取り上げることによって，問題解決能力を向上できるような教育，研究指導を行っていきたいと考えています．



災害時に医療を継続するには，図のように，複数の組織が連携し合い，様々な業務を行う必要があります．それを効果的，効率的に実行するための仕組みを，対象地域の関連組織とともに検討，構築しています．

モバイルヘルスシステムの構築へ向けて

行動情報学科　金 鎭赫

情報通信技術の進歩とともに日常生活下のデータ収集方法に画期的な変化が起きています。スマートフォンやウェアラブルデバイスを用いた日常生活下での気分状態や行動的変調、生理的反応の変化、さらには社会環境的情報データまでを実時間で連続的にモニタリングすることができるようになりました。これにより、健康関連行動や精神疾患の予防についてより多角的に考察・検証する研究が増えてきています。また、健康に否定的な影響を与える要因や異常を検知した時に適切な行動の誘導や効果的な情報の提示をすることで、行動変容や治療などの介入を行うジャストインタイム型介入（Just-in-Time Adaptive Intervention）と呼ばれる手法が提唱されています。

私は、日常生活下での多次元健康情報の計測・介入を統合するモバイルヘルスシステムを構築し、日常の生活習慣行動及び健康リスクのメカニズムの解明と介入に取り組んでいます。安全で標準化されたシステムを構築し、今後データ収集・解析、介入を行う研究や臨床現場をサポートする利便性・再現性の高い研究プラットフォームを提案し、その実質的な運用を検討・実証していきます。

モバイル技術を組み合わせたモバイルヘルス（mHealth）システムを構築し、そのシステムで収集可能な多次元データを用いた最新のデータ解析・モデリングを行い、生活習慣行動や健康リスクのメカニズムを解明。

令和元年度　キャリア支援室の取組み

Student career support

情報学部キャリア支援室　池田 香子

キャリア支援室は、情報学部独自の学生の就職活動を支援する組織ですが、1-2年生の段階から学生が自分の将来像を描きそれに向かって学業や課外活動を選択的に実施することや、就職の対象となる職種や企業・組織を調査することを含めて、入学から進路決定までの過程を総合的に支援しています。教員のほかキャリア支援アドバイザーを含めた8名で、キャリア意識啓発のためのガイダンス、企業・官公庁へのインターンシップ、合同企業説明会の開催、OB・OG会組織との連携による情報交換などを実施しています。

平成30年度は、情報学部の学部生は98.5%、修士課程の大学院生は100%の内定を得て卒業いたしました。令和元年度も7月末現在、約8割の学生が内々定を得ており、ほぼ例年通りの内定率を達成しています。引き続き、未内定学生のための支援に尽力しているところです。

情報学部の卒業生は、情報技術の提供側の企業（IT企業）だけでなく、利用側である製造業、金融業、公官庁、あるいはネットサービスの企業などにも進路を広げています。企業は、情報技術を用いた事業改革を進めるなかで、見通しのきかない中に針路を指し示すことのできる人材を求めています。そのような企業の求めに応えるには「自分で考え行動する力」が必要です。

キャリア支援室では、学生が目的意識と探索的な姿勢を持ってインターンシップに参加できるよう、学内の就職支援室と協働してインターンシップガイダンスを開催しています。そして夏期や冬期の休暇中などの期間を利用して、１日ないし10日ほどのインターンシップへの参加を推奨しています。

5日間以上の参加の場合には、インターンシップ後に実習内容や実習で得たことに関する報告会を実施しています。教員や他の学生たちと議論する中で、体験を振り返り自己理解を深めることで、「自分で考え行動する力」をより高めることができます。

インターンシップガイダンスの様子（2019/6/6）

オープンキャンパス紹介

Open campus Summer

2019 年度夏季オープンキャンパス

情報学部広報委員会　田村 敏広

2019年8月9日（金）に静岡大学情報学部夏季オープンキャンパスが開催されました。当日は天候にも恵まれ、午前の部、午後の部をあわせて597名が来場いたしました。外は厳しい暑さでしたが、一昨年に完成した共通講義棟を中心に使用し、快適な環境の中で実施することができました。また、ミニ講義、研究室展示、個別相談にも多くの方が訪れました。

今回のオープンキャンパスでは、教員による静岡大学情報学部の入学試験・就職・教育・福利厚生（学生生活）・国際交流に関する個別説明会や現役学生による個別相談会のほか、11研究室による研究やゼミ内容等の展示、各学科の教員によるミニ講義が行われました。ミニ講義は、大学で行なわれている講義や教員の研究内容を高校生にもわかりやすく紹介するもので、遠山紗矢香教員（情報科学科）による『これからの協調学習』、山本祐輔教員（行動情報学科）による『ウェブ情報の信頼性：信頼できるウェブ情報を獲得するには？』、郭薇教員（情報社会学科）による『専門知に向き合う：映像と法の関係から』の３つが開催されました。来場した多くの高校生が参加し、普段味わうことのできない大学の講義の雰囲気を楽しんでいるようでした。

なお、秋季オープンキャンパスは、2019年11月9日（土）に、「第24回テクノフェスタin浜松」「第20回静大祭in浜松」と同時開催されます。皆様のご来場をお待ちしております。

研究室展示の様子

個別相談会の様子

学位記授与式・卒業祝賀会のご案内

令和２年３月19日（木）に学位記授与式と卒業祝賀会が行われます。学位記授与式はアクトシティ浜松（大ホール）、卒業祝賀会はホテルクラウンパレス浜松にて開催されます。

学位記授与式におきましては、ご臨席の保護者様が多数の場合には十分な席数を確保することが困難であることを予めご承知おきください。

また、卒業祝賀会は卒業生･修了生および教職員のみの参加となっておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

Joy風 vol.23 October2019

お問い合わせ　〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1510・1511　FAX：053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページをご覧ください。
情報学部のウェブページに最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/